

偶作

武田信玄

塵殺す 江南十萬の兵

腰間の一劍血猶お腥

豎僧は識らず 山川の主

我向て慇懃に 姓名を問う

【作者】武田信玄(一五二〇〜一五七二年)・戦国時代の甲斐の武将、武田信虎の嫡子として生まれる。幼名太郎、号は機山。

謙信との川中島の合戦は頼山陽の詩でも有名である。家康を感嘆させた政治家だが、詩文にも秀でその作風は華麗・豪放である。

【語釈】*偶作…たまたま作った詩。 *塵殺(おうさつ)…皆殺しにする。 *江南…今川との戦いの駿河地方や北条との戦いの上野、武蔵、相模一帯か。 *腰間の一劍…腰に差した一振りの刀。 *豎僧(じゆそう)…小僧。小坊主。 *山川(さんせん)の主(しゆ)…山川を含む大地の主人公である領主。 *慇懃…ねんごろに。

【通釈】南方の敵軍十萬を皆殺しにした血まみれの刀は今なお生臭いくらいだ。

国主であるわしをこの寺の小僧どもは知らぬらしい、「どなたさまで」と名を尋ねおったわい!。

【備考】◎甲斐の武田として近隣に勇をはせた信玄の自負心が小僧の質問にあつて戸惑っているような、――ほほえましい情景の詩。